

2007 年度
(平成 19 年度)
事業報告書

自 2007 年 4 月 1 日
至 2008 年 3 月 31 日

財団法人日本映像国際振興協会

平成 19 年度事業実績報告書

I. 事業の状況

(1) 国際映画祭事業

- 名 称： 第 20 回東京国際映画祭
- 期 間： 平成 19 年 10 月 20 日（土）～10 月 28 日（日） 9 日間
- 開 催 会 場： 六本木ヒルズ（港区）／Bunkamura（渋谷区）をメインに
その他都内劇場及び施設・ホール等を使用
- 主 催： 財団法人日本映像国際振興協会（第 20 回東京国際映画祭実行委員会）
- 共 催： 経済産業省（マーケット部門）、東京都（コンペティション部門）
社団法人映画産業団体連合会（ニッポン・シネマ・クラシック部門）
- 後 援： 外務省／総務省／財団法人日本自転車振興会／独立行政法人国際交流基金／
渋谷区／港区／独立行政法人日本貿易振興機構／東京商工会議所／
社団法人日本経済団体連合会／社団法人日本映画製作者連盟／
社団法人映画産業団体連合会／社団法人外国映画輸入配給協会／
モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
財団法人角川文化振興財団／財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団／
財団法人デジタルコンテンツ協会／社団法人デジタルメディア協会
- 補 助： 財団法人日本自転車振興会（競輪公益資金）
- 支 援： 平成 19 年度文化庁国内映画祭支援
- オフィシャル・パートナー： 日本コカ・コーラ株式会社／
株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズ／株式会社 SANKYO
- 協 賛： 東急グループ／森ビル株式会社／鹿島建設株式会社
トヨタ自動車株式会社／マイクロソフト株式会社／YKK 株式会社／
大和証券 SMBC 株式会社／全日本空輸株式会社／凸版印刷株式会社／
富士フイルム株式会社／株式会社角川グループホールディングス／
ぴあ株式会社／松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／
角川映画株式会社／日活株式会社／TOHO シネマズ株式会社／
社団法人映画文化協会／サッポロビール株式会社
- 協 力： 読売新聞／テレビ朝日／ムービープラス／J-WAVE／J-ストリーム／
クララオンライン

【開催概要】

第20回東京国際映画祭は、平成19年10月20日（土）から10月28日（日）までの9日間、六本木ヒルズと渋谷 Bunkamura をメイン会場とし、その他都内各所の会場を使用して開催された。

今年の東京国際映画祭の特徴は、経済産業省の提唱により我が国のエンタテインメント産業の全分野が結集して初めて開催された「JAPAN 国際コンテンツフェスティバル 2007」（コフェスタ）の一翼を担って開催され、この官民挙げての国際的な行事の掉尾を飾るイベントであり、多彩な企画により第20回の節目の年を飾るに相応しい華やかな映画祭となった。

今年で4回目となるマーケット部門「TIFFCOM2007」と、同じく3回目となる「秋葉原エンタまつり 2007」も同時に開催されたが、各会場とも連日大変な賑わいを見せ、好評裡に終了することが出来た。

今映画祭では30の企画により、上映作品数は304作品、動員数348,521名となった。（第19回は上映作品数343作品、動員数300,320名）

オープニングセレモニーは10月20日（土）に、グランドハイアット東京（六本木ヒルズ）で開催された。オープニング女優の長澤まさみさんの開会宣言、角川歴彦チェアマンによる主催者挨拶の後、特別参加された甘利 明経済産業大臣が祝辞を述べられた。続いて国際審査員及びコンペティション作品の紹介が行われ、その後、同ホテルの宴会場で歓迎レセプションが開催された。

オープニング作品は『ミッドナイトイーグル』（成島 出監督）で、玉木 宏さん、大沢たかおさん、竹内結子さん等出演俳優による舞台挨拶もあり、盛況のうちに上映された。

クロージングセレモニーは、10月28日（日）に Bunkamura オーチャードホール（渋谷）で開催された。授賞式では、「黒澤明賞」、「最優秀アジア映画賞」、「日本映画・ある視点」の作品賞、特別賞の贈賞に続き、「コンペティション」各部門の受賞が発表された。コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」は、イスラエル-フランス合作映画の『迷子の警察音楽隊』に贈られた。

クロージング作品は『シルク』（フランソワ・ジラルド監督）で、役所広司さん、中谷美紀さん等出演俳優が舞台挨拶を行い、今映画祭の上映を華やかに締め括った。

また、今回の映画祭のクロージングレセプションは、コフェスタのクロージングパーティーと同じくするもので、秋の東京を彩った、映画をはじめ様々なエンタテインメント文化の祭典の閉幕としたのであった。

【企画内容】

【自主企画】

（1）コンペティション（共催：東京都）

2006年7月以降に完成した35ミリ長編作品を世界各国から公募し、今年は67の国と地域から応募された668本の作品を対象に厳正な予備審査を経た15本を期間中に上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるティーチンを行い、観客との交流

の輪を広げた。

6名（内、日本人が2名）のコンペティション国際審査委員会によって作品の審査が行われ、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が10月28日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドルと東京都知事からの賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。審査員特別賞には2万米ドル、その他の各賞に5千米ドルが授与された。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、1作品に対して賞金1万米ドルが授与され、港区長から賞状とトロフィーが贈られた。

東京サクラグランプリ：『迷子の警察音楽隊』 監督 エラン・コリリン
 審査員特別賞：『思い出の西幹道（仮題）』 監督 リー・チーシアン
 最優秀監督賞：ピーター・ハウイト 作品『デンジャラス・パーキング』
 最優秀女優賞：シェファリ・シャー 作品『ガンジー、わが父』
 最優秀男優賞：ダミアン・ウル 作品『トリック』
 最優秀芸術貢献賞：『ワルツ』 監督 サルバトーレ・マイラ
 上映数：15作品／動員数：14,662名

（2）特別招待作品

国内未公開の話題作を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数：22作品／動員数：16,515名

（3）アジアの風

現在世界で最も熱気が感じられるアジアの映画を対象に、更に中東まで地域を拡大して、プログラミングディレクターが選定した作品に、エドワード・ヤン監督の追悼特集も含め、計29本を上映した。

上映数：29作品／動員数：18,187名

（最優秀アジア映画賞）

アジア映画の発展を支援する目的で設けられる賞である。「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画審査委員会により1作品が選ばれ、渋谷地区委員会の協力により賞金1万米ドルが授与され、併せて渋谷区から区長賞の賞状と「楯」が贈られた。

最優秀アジア映画賞：『シンガポール・ドリーム』

監督 イェン・イェン・ウー・コリン・ゴー

（4）日本映画・ある視点

活況を増している日本映画の中から、ある角度に焦点を絞って選定し、一般観客を始め、海外ゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れた多様性のある作

品 9 本を上映した。

上映数： 9 作品 / 動員数： 3,975 名

(作品賞・特別賞)

上映作品の中から、審査委員会の審査により、作品賞と特別賞が選ばれ、賞状と各 100 万円が贈られた。

作品賞：『実録・連合赤軍―あさま山荘への道程』 監督 若松孝二

特別賞： 森岡利行 作品『子猫の涙』の脚本と演出

(5) ワールドシネマ

ヨーロッパや南北アメリカの映画を中心に、世界で話題になっている新作の数々をいち早くご覧いただく、洋画ファンにとって待望の新企画。国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の最新作を初上映した。

上映数： 8 作品 / 動員数： 3,436 名

(6) 映画が見た東京

戦後の焼け跡から復興し、高度成長期、オリンピック、バブルの時代を経て今日まで、移り行く東京の姿を映画はどのように捉えていたのか。劇映画、記録映画、アニメ、そして邦画洋画を問わず、東京を舞台にした映画を 51 本上映した。

本企画の発表会見には東京都の石原慎太郎知事が出席するなど大いに話題となり、会期中は多彩なゲストを招いたトークショーも大変盛況だった。

上映数： 51 作品 / 動員数： 7,474 名

(7) animecsTIFF2007

海外から熱い注目を浴びる日本のアニメーションの作り手たちにスポットを当て、多種多様なアニメーションを世界に発信することを目的とした企画である。

期 間： 平成 19 年 10 月 20 日 (土) ~10 月 28 日 (日)

会 場： TOHO シネマズ六本木ヒルズ Screen 1、2 /

東京アニメセンターアキバ 3D シアター

上映数： 10 作品 / 動員数： 1,350 名

(8) シネマ・ヴァイブレーション／音楽と映画の共振関係

ますます濃密になってきた第 2 弾！音楽で言葉を紡ぎ出す恋を描いた「once ダブリンの街角で」と、'05 年に急逝したフォークシンガー・高田 渡の秘蔵ライブを封じ込めた音楽ドキュメンタリーを特別上映した。

期 間： 平成 19 年 10 月 25 日 (木) ~10 月 26 日 (金)

会 場： TOHO シネマズ六本木ヒルズ Screen 3、4

上映数： 2 作品 / 動員数： 240 名

(9) 声優口演ライブ with 山下洋輔

羽佐間道夫、戸田恵子等、日本が世界に誇る声のプロフェッショナルたちがチャップリンやキートンの無声映画を口演、伴奏音楽として“山下洋輔ニューカルテット”がライブ感を打ち出したパフォーマンスで観客を魅了した。

期 間：平成19年10月21日（日）

会 場：Bunkamura オーチャードホール

上映数：2作品／動員数：1,554名

[共催企画]

(1) ニッポン・シネマ・クラシック（主催：社団法人映画産業団体連合会）

日本映画史上不朽の名作を独特の切り口で特集する。

今年は「ふるさとの詩(うた)」と題し、“懐かしい古里”“大切な場所”“心の故郷”など、誰もが心の奥底に刻み込んでいる“ふるさと”をテーマに、数々の作品を紹介した。

上映数：7作品／動員数：976名

(2) 第2回みなと上映会（共催：東京国際映画祭みなと委員会）

港区の資金援助を受けて、港区内の商店会、自治会、町会で結成された「東京国際映画祭みなと委員会」との共催企画。家族向き映画のボイスオーバー上映（舞台上で声優が吹き替えをする）を今年も実施。更に、初めての試みとして屋外での無料上映会を行った。

期 日：平成19年10月20日（土）、10月27日（土）

会 場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ Screen 3／六本木ヒルズアリーナ

上映数：9作品／動員数：336名

(3) 第4回文化庁映画週間 — Here & There

①「第5回文化庁映画賞贈呈式」（主催：文化庁）

わが国の映画芸術の向上と発展に資するため、優れた文化記録映画3作品に文化庁映画賞を贈ると共に、映画作りを支えてきた功労者5名を顕彰した。

期 間：平成19年10月20日（土）

会 場：グランドハイアット東京

②「第5回文化庁映画賞受賞記念上映会」（主催：文化庁）

文化庁映画賞（文化記録映画部門）受賞の3作品を上映し、併せて監督などによる舞台挨拶も行った。

期 間：平成19年10月21日（日）

会 場：Bunkamura ル・シネマ1

上映数：3作品／動員数：765名

- ③「第4回世界映画人会議 I in TIFF park」(主催：財団法人日本映像国際振興協会)
 今映画祭の「コンペティション」、「日本映画・ある視点」両部門に作品を出品した監督を招き、テーマを監督が持つべき「映画のスタイル」に設定して TIFF park にて公開のイベント形式として実施した。
 期 間：平成19年10月23日(火)
 会 場：六本木ヒルズアリーナ
- ④「第4回世界映画人会議 II」(主催：財団法人日本映像国際振興協会)
 カナダ、フランス、ドイツのアニメーション界の作り手と古川タク氏が、若手作家の支援を紹介し、諸国には公的な、あるいは民間の有機的な策があることを確認した。
 期 間：平成19年10月25日(木)
 会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 スカイスタジオ
- ⑤「第4回文化庁全国映画祭コンベンション」(主催：文化庁)
 “映画教育”をテーマに、映画監督の小栗康平氏による基調講演、フランスのこども映画館“ユルシュリーヌ”の紹介の後、日本の映画教育の現状と課題についてディスカッションが行われた。関係者約150名が参加した。
 期 間：平成19年10月25日(木)
 会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム
- ⑥「第5回文化庁全国フィルムコミッション・コンベンション」
 (主催：財団法人日本映像国際振興協会)
 「歴史的・文化的地域における FC 活動」をテーマとして、内外関係者による事例報告をもとに、撮影における住民理解の重要性等について議論した。
 期 間：平成19年10月24日(水)
 会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

[提携企画]

- (1) 第20回東京国際女性映画祭(主催：東京国際女性映画祭実行委員会)
 TIFF の発足と同時にスタートした「女性映画祭」も恙なく20回を迎えた。この間に、日本でも女性監督が次々に誕生し、ベテランとデビュー間もない新人の作品を同時に上映できるまでになってきた。世界各国の女性監督が映画に女性の視点を加え、真の人間文化の創造を希求する作品を15本上映した。
 期 日：平成19年10月21日(日)～10月25日(木)
 会 場：東京ウィメンズプラザ／NHK みんなの広場 ふれあいホール
 上映数：15作品／動員数：4,650名

(2) コリアン・シネマ・ウィーク 2007 (主催：駐日韓国大使館／韓国文化院)

今年で7回目を迎え、年々ファンも増加している。テーマを設定して、今年も選りすぐりの韓国映画を上映した。

上映数： 5 作品 / 動員数： 3,421 名

(3) ショートショートフィルム・フェスティバル&アジア 2007 受賞作品上映

「SSFF&ASIA2007」の受賞作品を一挙上映した。また、最終日には平林勇監督を講師に迎えて、クリエイター向けワークショップを展開した。

期 日： 平成 19 年 10 月 25 日 (木) ～10 月 28 日 (日)

会 場： 東京都写真美術館 映像ホール

上映数： 12 作品 / 動員数： 423 名

(4) 香港映画祭

香港および香港映画の PR を目的に香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部と香港政府観光局が共同で主催した映画祭。4 本のうち 3 本が日本初公開で、監督や主演俳優が大挙来日したこともあり、会場は異常な熱気に包まれた。

期 間： 平成 19 年 10 月 23 日 (土) ～10 月 25 日 (日)

会 場： Bunkamura オーチャードホール

上映数： 4 作品 / 動員数： 3,856 名

(5) 2007 東京・中国映画週間 (主催：日中友好映画祭実行委員会／他)

日中国交正常化 35 周年の今年、“2007 日中友好・スポーツ交流年”の認定事業として、現代の中国を映し出している最新作・話題作を上映した。各作品の上映時には作品ゲストの舞台挨拶があり、大勢の中国映画ファンで賑わった。

期 間： 平成 19 年 10 月 20 日 (土) ～10 月 28 日 (日)

会 場： Bunkamura オーチャードホール／東京都写真美術館／シネマート六本木

上映数： 9 作品／動員数： 2,399 名

(6) CJax-日加ショートアニメーション・エキスチェンジ

(主催：カナダ国立映画制作庁／ブラボーファクト)

カナダ作品 14 本、日本作品 17 本のショートアニメーションを 2 プログラムで上映した。日本の若手作家にも大きな刺激となり、国際デビューを応援するという目的を果たすことが出来た。

期 間： 平成 19 年 10 月 26 日 (金)

会 場： TOHO シネマズ六本木ヒルズ Screen 1

上映数： 31 作品 / 動員数： 154 名

(7) 東京国際シネシティ フェスティバル 2007

(主催：東京国際シネシティ フェスティバル実行委員会)

今年で2回目となったフェスティバル。映画祭の枠を超えて、「世界のCMフェスティバル」など装いを新たにした多彩なゲストやプログラムで実施し、劇場の内外の連動したイベントで盛り上がりを見せた。

期 間：平成19年11月23日(金)～11月25日(日)

会 場：新宿ミラノ1

上映数：6作品 / 動員数：18,241名

(8) GTF トーキョーシネマショー2007 (主催：社団法人外国映画輸入配給協会／他)

初日は、配給会社30社の宣伝プロデューサーによる秋以降公開の自社作品のプレゼンテーションに続き、第3回「筑紫賞：ゴールデンタイトルアワード」の授賞式で開幕、また2日目から5日間にわたる試写会を行った。

期 間：平成19年8月7日(火)～8月12日(日)

会 場：内幸町イイノホール

上映数：12作品 / 動員数：7,518名

(9) TIFFCOM2007～アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット

(主催：経済産業省／日本映像振興株式会社)

① 「TIFFCOM2007」

開催4年目を迎えた経済産業省委託のマーケット部門であるが、昨年を上回る出展小間(155)、出展団体(172)に、各国から多くの来場者が訪れて、国際的な盛況のマーケットとなった。

期 間：平成19年10月22日(月)～10月24日(水)

会 場：六本木アカデミーヒルズ40(展示会場) /

六本木アカデミーヒルズ49(スクリーニング) /

TOHO シネマズ六本木ヒルズ Screen3(スクリーニング)

来場者：17,085名

② 「Tokyo Project Gathering」

映画、テレビ、アニメなどの映像の、企画段階のプロジェクトについて、国際共同製作、共同出資を目指すマーケットとして今年が3回目。今年から優れた企画に対し、その実現を支援するための「TPG アワード」(ソニーPCLの協賛)を設立した。

期 間：平成19年10月21日(日)～10月24日(水)

会 場：アカデミーヒルズ49 オーディトリウム(プレゼン) /

アカデミーヒルズ40 TIFFCOM会場(個別ミーティング)

③ 「Seminar@TIFFCOM2007」

「キャスティングフォーラム」～How to find a Japanese actor for Your film～をメインテーマに、ハリウッド、フランスからキャスティングエージェントが3名来日し、

俳優タレントの海外進出を積極的に目指す日本側の各社の担当者とディスカッションを行った。

期 間：平成 19 年 10 月 23 日（日）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 スカイスタジオ

(10) TIFF in AKIHABARA 秋葉原エンタまつり 2007

（主催：「秋葉原エンタまつり 2007」実行委員会）

3 回目となった今回、昨年以上に話題性が高まった。初めての試みとして「MANGA フェスティバル」を併催し、展示やセミナーを実施したことによりエンタテインメント市場の活性化に寄与することが出来た。

期 間：平成 19 年 10 月 20 日（土）～10 月 28 日（日）

会 場：秋葉原クロスフィールド（UDX）；AKIBA_SQUARE／UDX ギャラリー／

東京アニメセンター／デジタルハリウッド大学／秋葉原地区販売店／その他

上映数：12 作品 ／ 来場者：156,852 名

(11) ジャパン・ロケーション・マーケット 2007

（主催：経済産業省／財団法人日本映像国際振興協会）

日本各地の FC やロケ支援組織の人材育成を目的としたセミナーを行い、更に地域コンテンツ製作について意見交換するシンポジウムでは、様々な立場のゲストを迎えて、映像製作における地域振興と国際共同製作に向けて、取り組むべき課題と方向性が抽出された。

期 間：平成 19 年 10 月 22 日（月）～10 月 24 日（水）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

来場者：499 名

(12) 東京ネットムービーフェスティバル 2007

（主催：「東京ネットムービーフェスティバル」事務局）

一般部門では、応募総数 211 本の中から予備選考を経て決勝に進出した 10 作品を、10 月 1 日より公式サイトで公開し、10 月 27 日の授賞式で各賞の表彰を行った。

期 間：平成 19 年 10 月 1 日（月）～10 月 27 日（土）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 タワーホール（授賞式・上映会）

上映数：14 作品／動員数：214 名

(13) 国際コンテンツ人材交流・育成セミナー II

（主催：「JAPAN 国際コンテンツフェスティバル」実行委員会）

コフェスタ実行委員会の主催により、26 日と 27 日の 2 日間にわたり世界を代表する学識経験者を招いて、映像系学校の運営についての講演、世界で活躍する”映像人”を育てる秘訣についてのパネルディスカッションを行った。

期 間：平成 19 年 10 月 26 日（金）～10 月 27 日（土）

来場者：151 名

(14) 「第 20 回東京国際映画祭セミナー／シンポジウム」

①J-Pitch セミナー「日本映画産業の現在」

（主催：経済産業省／財団法人日本映像国際振興協会）

TIFF／TIFFCOM で来日した海外の映画関係者向けに、日本映画界への理解と、日本との共同製作を促進することを目的として、日本映画の「製作」「興行・配給」「公的支援」の 3 部構成のセミナーを行った。

期 間：平成 19 年 10 月 23 日（火）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 スカイスタジオ

②JETRO セミナー「欧州各国の映画製作の方法と共同製作のポイント」

（主催：日本貿易振興機構）

European Producers Club メンバー訪日の機会を捉え、各国の共同製作事情について詳しいドイツとフランスのプロデューサーが、欧州との共同製作に関心がある日本関係者を対象に講演を行った。

期 間：平成 19 年 10 月 23 日（火）

会 場：六本木アカデミーヒルズ 49 コラボレーションルーム 1+2

(15) 第 20 回東京国際映画祭プレイベント（主催：港区／財団法人日本映像国際振興協会）

両日とも過去の東京国際映画祭で受賞した話題作と公開間もない新作を上映し、区民の注目を集めるとともに、来るべき映画祭のプレイベントとしての成果を収めることが出来た。

期 間：平成 19 年 7 月 22 日（日）／平成 19 年 9 月 22 日（土）

上映数：4 作品 ／ 動員数：1,315 名

(16) TIFF movie cafe

映画祭を訪れる人々の交流の場としてオープン。会場には、第 20 回の映画祭を記念した回顧写真を展示した他、一般公開で作品ゲストの記者会見もこのカフェで実施した。

(17) シネマストリート

森ビルとの共催企画。誰もが気軽に映画を楽しめる空間として、ジェミニテクノロジーの協力により、常時、屋外上映を実施。サッポロビールの協力により飲食コーナーも併設されて会期中の賑わいを演出し、レクサスの車両展示も行われた。

期 間：平成 19 年 10 月 20 日（土）～10 月 28 日（日）

会 場：六本木ヒルズ 大屋根プラザ

来場者：4,872 名

(18) TIFF park

五感で楽しむ映画祭りをテーマに、多彩なステージイベント、世界各国の料理を楽しめる屋台村、各地の映画を紹介するロケーションアリーナブースの展開など「外から見える映画祭」企画として実施された。

期 間： 平成 19 年 10 月 20 日（土）～10 月 28 日（日）

会 場： 六本木ヒルズ アリーナ

来場者： 47,200 名

【 顕彰・助成 】

- ①東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ、その他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
 - ②アジアの優秀作品に対する顕彰（最優秀アジア映画賞）。
 - ③日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画・ある視点 作品賞、特別賞）。
 - ④世界の映画界で顕著な功績を挙げている個人に対する顕彰（※黒澤 明賞）。
- ※受賞者：デヴィット・パットナム（イギリス・プロデューサー）

【 その他 】

①オープニング・レッドカーペット

いまや、東京国際映画祭の恒例行事として知れ渡ってきたレッドカーペット。沿道を埋めた 7,700 人の映画ファンが注目する中を、オープニング女優の長澤まさみさんの華やかなパフォーマンスで開始され、数多くの作品ゲストや内外からの招待者が次々と、けやき坂に特設されたレッドカーペットの上を歩きながらセレモニー会場に入場した。

期 間： 平成 19 年 10 月 20 日（土）

会 場： 六本木ヒルズ・けやき坂ストリート

②能楽鑑賞会（主催：渋谷区）

第 20 回東京国際映画祭公式行事として、渋谷区を訪れる外国の人々に、日本の伝統文化を紹介し、併せて渋谷区民において国際交流と日本文化に親しむ機会を、という趣旨で能楽鑑賞の夕べが催され、桑原敏武渋谷区長が国際交流や理解を深める事業を積極的に推進している渋谷区を代表して挨拶された。

期 間： 平成 19 年 10 月 23 日（火）

会 場： 国立能楽堂（千駄ヶ谷）

【 運営 】

①自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」「特別招待作品」「アジアの風」及び「日本映画・ある視点」の各部門に加え、新部門として「ワールド・シネマ」「第 20 回特別企画・映画が見た東京」を実施した。

②上映会場、各種会場

本年も六本木と渋谷をメイン会場とした。

主要上映会場： TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9 スクリーン）

渋谷 Bunkamura（オーチャードホール、シアター・コクーン、
ル・シネマ 1・2）

その他会場（提携企画を上映）： 東京都写真美術館、シネマート六本木、
東京ウィメンズプラザ、新宿ミラノ 1

また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

- グランドハイアット東京： オープニング・セレモニー、同レセプション会場として使用
- アカデミーヒルズ： 49 階（TIFF 事務局、各種取材、各種セミナー実施）
40 階（TIFFCOM 及び TCM のマーケット）
2 階（レジストレーションデスク、及び、ID カウンター）
3 階（プレス・インフォメーション、
プレス・カンファレンス）
- ヒルズカフェ： TIFF ムービーカフェとして使用
- 六本木ヒルズ 大屋根プラザ： シネマストリートとして使用
- 六本木ヒルズ アリーナ： TIFF Park として様々なイベントを実施
- 渋谷 Bunkamura ギャラリー： 渋谷事務局を設置
- 渋谷 Bunkamura ザ・ミュージアム： クロージング・レセプション会場として使用
（コフェスタ・クロージング・パーティに同じ）

③入場料金

本年度は、動員増を目的に、コンペティション作品を 1,500 円→1,000 円に、アジアの風作品・日本映画ある視点作品を 1,500 円→1,300 円とした。尚、料金設定は以下の通り。

- オープニング作品（オーチャード） 1,800 円
- クロージング作品（オーチャード） 2,200 円
- オープニング・ナイト作品 1,000 円（※コンペ作品）
- クロージング作品（シネマズ六本木） 1,800 円
- コンペティション 1,000 円
- 特別招待作品 1,800 円
- 上記 3 本立て上映 3,000 円
- アジアの風、日本映画・ある視点、
ワールド・シネマ、
シネマ・ヴァイブレーション 1,300 円

○ 映画が見た東京	1,000 円
上記オールナイト上映	2,500 円
○ animecsTIFF2007	1,000 円
○ 声優口演ライブ with 山下洋輔	4,500 円
○ ニッポン・シネマ・クラシック、 みなと上映会、香港映画祭、 東京女性映画祭	1,000 円
○ コリアン・シネマ・ウィーク 2007	900 円
上記 5 回券	4,000 円
○ 2007 東京・中国映画週間	1,300 円

④会期中のイベント

(六本木ヒルズアリーナ)

会期中、TIFF park と称して、様々なイベントを実施。

- オープニングイベント：レッドカーペットからの流れで作品ゲストが舞台に登壇、挨拶
- 配給会社作品イベント：「自虐の詩」(松竹)、「恋空」(東宝)、「クローズ ZERO」(東宝)、「Once ダブリンの街角で」(ショウゲート) で実施
- くものすカルテットライブ：映画祭出品作品関連
- 予告編上映会：出品作品のある配給各社の予告編を上映 (テレ朝ビジョンにて)
- ロケーション・アリーナ・ブース設置、アリーナ・イベント
- 世界映画人会議
- 「フリーダム」上映イベント、屋台村 (キッチンカー) など

(TIFF movie cafe)

会期中、新スポットであるヒルズカフェを TIFF ムービーカフェと称し、様々な企画を行った。

- 20 回までの歩みをパネルで展示 (入場無料)
- コンペ作品記者会見、日本映画・ある視点作品の公開取材、各種パーティー

(シネマストリート)

こちらも新スポットである大屋根プラザをシネマストリートと称し、屋外上映の実施、飲食コーナー展開、LEXUS の車両展示を行った。

⑤インフォメーション・ブースの設置

六本木は TIFF ムービーカフェ前、渋谷はハチ公前、及び、東急本店前にて実施。広く一般の皆様に映画祭を認知していただく意味でも効果があった。

⑥シャトルバスの実施

会期中、シャトルバスを渋谷 Bunkamura 前～六本木ヒルズ間で運行し、映画祭参加者の2会場間の移動の手助けを行った。

⑦デイリーニュースの発行

会期中、日々、行われる映画祭の最新レポートが載ったデイリーニュース（タブロイド版）をインフォメーション・ブース等で配布。ホットニュースをいち早く映画ファン、関係者に告知することが出来た。最終日の号外（受賞作品の速報）は今年も実施。好評であった。

⑧ボランティアスタッフの採用

映画祭 WEB サイト上で募集したボランティアの方々には今年も上記インフォ・ブースでの映画祭の宣伝告知や案内を初め、様々なところで活躍してもらった。また、今年は映像関係の専門学校生をインターンという形で入ってもらうことも部分的に導入したが、好評であった。

⑨オリジナルグッズの販売

20 回記念のオリジナルグッズとして、携帯ストラップ、ぬいぐるみ、エコバッグ、T シャツを作成した。デザインの良さもあり、概ね好評で、グッズ売上全体では黒字となった。

【 広報活動 】

- | | |
|---------|---|
| ①新聞広告 | 読売新聞、朝日新聞、毎日新聞 |
| ②劇場予告 | 首都圏の主要劇場 8 月上旬／特報、9 月下旬／本予告 |
| ③パブリシティ | NHK(地上波)での特集放送、映画専門誌への特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など。 |
| | 一般紙、スポーツ紙・・・新聞合計：752 |
| | 映画専門誌、情報誌他・・・紙媒体合計：431 |
| | NHK、民放全局、BS、CS 局他・・・電波媒体合計：165 |
| | ネット媒体合計：736 |
| | 海外媒体合計：58 |
| | <u>パブリシティ合計：2,122 媒体</u> |
| | 映画祭会期中は、劇場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応。 |
| ④宣伝素材 | ティザーチラシ（8 月上旬）、チラシ（全上映スケジュール入り）、公式プログラム、公式記録、ポスター2 種類、デイリーニュース(クロージングの号外を含め、10 回発行) |

⑤Cyber TIFF 映画祭の情報発信の総合プロジェクト

公式サイト及び動画配信を通して、映画祭の最新情報を発信し、情報提供の場としての大きな役割を果たす。また周辺情報、ゲストインタビュー等により、多角的な映画祭の楽しみを提供している。

またCS放送局のムービープラスを組み、オープニングのレッドカーペットの模様をハイビジョンで生放送。その他、事前番組、特集等で映画祭をサポートしている。

⑥イメージネット

映画祭の出品作品の素材を提供しているサービス。登録者であれば、誰でもアクセスでき写真等が取り込める。また情報発信のツールとしても活用。

⑦プレス ID

東京映画祭記者クラブ、日本映画記者クラブに所属の方々にスペシャルパスを発行。またプレス ID 登録者へは、一斉メールにて映画祭の情報を発信。

⑧記者会見

- 第1回記者会見 2007年7月30日 六本木ヒルズ・タワーホール
- 第2回記者会見 2007年9月19日 六本木ヒルズ・タワーホール
- 「映画が見た東京」記者会見 2007年10月17日 ホテルオークラ
- 会期中の記者会見（六本木ヒルズ・ムービーカフェ、文化村リハーサル室）

【 東京国際映画祭地区委員会の活動 】

①渋谷地区委員会

渋谷地区委員会、渋谷区、渋谷警察署、渋谷消防署、地区委員会の加盟各商店街、大型店などの協力により、華やかに街の演出と装飾を実施した。

- 街路灯フラッグの掲出 道玄坂商店街 他10商店街各通り
2007年10月15日（月）～10月28日（日）
- 大型店の壁面懸垂幕 東急本店・東横店、シブヤ西武、高島屋 他
2007年10月15日（月）～10月28日（日）
- 街頭大型モニター 中央街（映画祭開催告知C Fの放映）
2007年10月15日（月）～10月28日（日）
- 交通広告の掲出 JR山手線、東急全線、京王線、京王井の頭線、
及び東京メトロ銀座線 計6,220枚
2007年10月26日（金）～10月28日（日）
- ハチ公像のタスキ掛け、渋谷駅地下鉄入り口タイトル掲出
- インフォメーション・ブース設置
東急東横店ハチ公側及び東急本店正面口
2007年10月20日（土）～10月28日（日）
- 渋谷地区委員会の開催
第1回：2007年7月17日（月）
第2回：2007年9月27日（水）
第3回：2007年11月16日（金）

②みなと委員会

港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、港区内の商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会。会期前から映画祭の会期を通じて、会場周辺や区内の各所で映画祭を盛り上げるさまざまな活動を展開した。

- **みなと上映会** 家族を対象とした上映会の開催
(TOHO シネマズ六本木ヒルズ、六本木ヒルズ・アリーナ)
2007 年 10 月 20 日 (土)、27 日 (土)
- **観客賞** 観客が自由に選ぶコンペ作品の賞 (賞金 1 万米ドル)
- **街頭フラッグの掲出** けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街 計 273 枚
2007 年 10 月 11 日 (木) ~ 10 月 28 日 (日)
- **クリーンナップ・プロジェクト** 六本木会場周辺の街頭清掃作業
港区の武井区長、角川チェアマン他 約 260 名
2007 年 10 月 13 日 (土) 午前 9 時開始
- **みなと区民まつり** 東京国際映画祭みなと委員会の活動の PR
2007 年 10 月 6 日 (土) ~ 10 月 7 日 (日)
- **オリジナル・パンフレットの作成** 港区内全戸新聞折込、主要駅、公共施設での配布
計 155,000 枚
(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)
- **地下鉄通路** 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- **メトロハット** 特設幕、ポスターボード 他
- **66 プラザ** 水景、ポスターボード
- **ウエストウォーク** コルトン、バナー 他
- **けやき坂コンプレックス** 吊り下げバナー
- **ヒルサイド** 壁面、バナー 他

2. 国際振興支援事業

【 映画祭展示支援事業 】

主要映画祭での「ジャパンパビリオン」「ジャパンプース」の出展

（１）事業の位置づけ

文化庁「日本映画海外映画祭出品等事業」の業務委託を受けて、平成 15 年度から始まった事業である。平成 17 年からは、経済産業省、文化庁、ジェトロとの共同運営となり、場所によっては現地日本大使館、国際交流基金、VPO（映像産業振興機構）の協力を得るなど「オールジャパン」体制によって実施されている。

(2) 事業の目的

海外の主要映画祭において日本映画情報センターとして「ジャパンパビリオン」や「ジャパンブース」を出展、日本映画のセールス会社にスペースを提供することで、日本映画の海外広報、海外映画祭上映に止まらず日本映画の海外配給を促進することを目的とする。

(3) 事業の概要

- ①カンヌ映画祭「ジャパンブース」(平成 19 年 5 月 16 日～27 日)
 - ・カンヌ映画祭見本市(マルシェ)会場内に「ジャパンブース」(セールス会社 8 社が共同利用)を出展
- ②トロント映画祭「アジアデスク」(平成 19 年 9 月 6 日～15 日)
 - ・トロント映画祭インダストリーセンター内に、韓国映画振興委員会(KOFIC)と共同で「アジアデスク」を出展、日本からの公式上映 7 作品のセールス活動に協力
 - ・国際交流基金トロント日本文化センターにて、国際交流基金、ジェトロ、ユニジャパン、KOFIC の共催で「アジアレセプション」を開催
- ③プサン映画祭「ジャパンブース」(平成 18 年 10 月 8 日～11 日)
 - ・見本市(アジア・フィルム・マーケット)会場内に「ジャパンブース」を出展(セールス会社 8 社が共同利用)
 - ・映画祭公式ホテルにて「ジャパンレセプション」を、VIP0 との共催で実施
- ④ベルリン映画祭「ジャパンパビリオン」(平成 20 年 2 月 7 日～17 日)
 - ・見本市(ヨーロッパ・フィルム・マーケット)会場内に「ジャパンパビリオン」を出展(セールス会社 10 社が共同利用)
- ⑤香港映画祭「ジャパンパビリオン」(平成 20 年 3 月 17 日～20 日)
 - ・見本市(香港フィルムアート)会場内に「ジャパンパビリオン」を出展(セールス会社 11 社が共同利用)

【映画祭出品支援事業】

海外映画祭・映画見本市への出品支援「日本映画海外展開支援」

(1) 事業の位置づけ

上記事業と同じく、文化庁「日本映画海外映画祭出品等事業」の業務委託を受けて、平成 15 年度から始まった事業である。

(2) 事業の目的

海外の映画祭・映画見本市に参加する日本映画、映画製作者への出品経費、渡航経費支援を行なうことで日本映画の映画祭参加を促進し、日本映画のプレゼンスを世界にアピールすることを目的とする。

(3) 事業の概要

①支援内容：

- ・ 外国語字幕制作費の支援
- ・ 渡航費の支援
- ・ 宣伝制作物の支援

②支援枠：

- ・ 映画祭・映画見本市参加への一般枠
- ・ 指定映画祭参加作品への優先枠（カンヌ、ベネチア、ベルリンなど主要映画祭）
- ・ 若手映画製作者への特別枠

(4) 平成 19 年度支援実績

- ・ 総採択数 99 件（平成 18 年度実績 101 件）
- ・ 総申請件数 219 件（同 246 件）
- ・ 支援総額 49,783,424 円（同 37,332,098 円）
- ・ 主な支援作品 カンヌ国際映画祭グランプリ受賞『殞の森』（河瀬直美監督）、
ロカルノ国際映画祭グランプリ受賞『愛の予感』（小林政広監督）、
ベルリン国際映画祭公式出品『母べえ』（山田洋次監督）

【 国際共同製作支援事業 】

日本の映画製作者を対象にした国際共同製作支援「J-Pitch」

(1) 事業の位置づけ

経済産業省「コンテンツ国際共同製作基盤整備事業」の業務委託を受けて、平成 18 年度から始まった事業である。

(2) 事業の目的

完成した映画を海外市場に出すのではなく、企画段階から海外の出資を募るという、海外市場を視野に入れた映画製作を推進し、映画製作のリスク軽減と日本映画の新しい市場開拓を目的とする。

(3) 事業の概要

①日本映画製作者の海外派遣

海外の主要な映画祭において実施される「企画マーケット」に、日本映画製作者を派遣し国際的なネットワーキングの機会を提供する。そのような企画のプレゼンテーションと海外映画製作者とのマッチングの場を確保するために、J-Pitch では以下の国際映画祭とパートナー契約を交わした。

J-Pitch パートナーとなる映画祭及び企画マーケット名：

- ・カンヌ国際映画祭「プロデューサーズ・ネットワーク」(5月)／派遣：10名
- ・上海国際映画祭「コ・プロダクション ピッチ&キャッチ」(6月)／派遣：5名
- ・パリ映画祭「パリス・プロジェクト」(7月)／派遣：7名
- ・プサン国際映画祭「プサン・プロモーション・プラン (PPP)」(10月)／派遣：5名
- ・ロッテルダム国際映画祭「シネマート」(1月)／派遣：3名
- ・ベルリン国際映画祭「コ・プロダクション・マーケット」(2月)／派遣：2名
- ・香港国際映画祭「香港アジア・フィルム・ファイナンス・フォーラム (HAF)」(3月)
／参加 7名

②企画開発ワークショップ

上記の国際映画祭において映画企画をプレゼンテーションするために必要な素材や情報、知識、ノウハウを、日本映画製作者に提供する「企画開発ワークショップ」を実施した。ワークショップには5名の映画製作者が参加、内、1企画が2月に開催されたベルリン国際映画祭「コ・プロダクション・マーケット」にアジア企画として初めて選出された。

③J-Pitch 公式サイト

J-Pitch 活動の紹介、共同製作の促進に必要な情報（世界主要国の映画産業統計及び映画製作支援プログラム）を掲載する J-Pitch 公式サイトを公開した。同時に、日本映画及び日本映画産業のデータベース（JFDB）のプログラムを開発、2002 年以降の劇場公開日本の情報をサイト上にリンクした。データ収集能力も上がっており、2007 年については全公開映画 407 本の約 7 割のデータを掲載している。

公開年	掲載作品数
2002 年	40 件
2003 年	118 件
2004 年	137 件
2005 年	117 件
2006 年	222 件
2007 年	278 件
合 計	912 件

(4) 平成 19 年度の実績

J-Pitch 事業参加企画から、日本・オランダ・香港合作映画『トウキョウソナタ』（監督：黒沢清、製作：エンタテインメント・ファーム）が完成し、5月のカンヌ国際映画祭公式作品として選出された。他に、日本・台湾合作映画『闘茶』（監督：ワン・イエミン、製作：ピクニック）など3企画が海外の出資者や共同製作者を得ることができた。

3. 調査研究事業

国際的なネットワークの構築と日本映画製作者への海外映画産業情報の提供

(1) 国際協力事業の推進

平成 18 年度の国際協力事業、国際ネットワーク事業は以下の通りである。

①日仏映画協力覚書：

平成 15 年に締結されたフランス国立映画センター（CNC）との「日仏映画協力覚書」に基づき、以下の日仏交流会を開催した。

- ・カンヌ国際映画祭（5 月） 日仏映画プロデューサー交流会
- ・第 20 回東京国際映画祭（10 月）

「ヨーロッパ・プロデューサー・クラブ（EPC）」との交流セミナー

- ・フランス映画祭 2008（3 月）

国際共同製作及びパリス・プロジェクト参加に関するセミナー（いずれも J-Pitch 事業の一環として実施）

②アジア映画産業ネットワーク（AFIN）：

同じく平成 15 年に締結された「アジア映画産業ネットワーク（AFIN）協定」に基づき、トロント映画祭において、韓国（映画振興委員会・KOFIC）と共催でアジア映画共同デスクの出展を実施した。（出展支援事業の一環として実施）

③日中映画協力覚書：

平成 18 年度に実施した日中映画製作者交流事業を実績を基に、中国合作制片会社との間で平成 19 年 6 月に開催された上海国際映画祭にて調印。協力の内容は、相互の映画産業情報の交換、日中共同製作の推進である。

(2) 「ユニジャパン通信」の発行

当財団では、映画祭情報を必要とする賛助会員、映画製作者、各社セールス担当者に「ユニジャパン通信」を隔週で発行してメールで直接送信している（送信リストは 281 件）。映画祭開催情報、エントリー情報の他に過去の日本映画の出品状況・受賞実績なども掲載して、映画祭の傾向がわかるようにしている。またこの通信記事は本財団のウェブサイトにも転載し、より広く情報提供を行なっている。

「ユニジャパン通信」でエントリー情報を掲載した海外映画祭の数は以下の通り。

開 催 地 域	掲載映画祭数
ヨ ー ロ ッ パ	98 件（ 59 件）
南北アメリカ	54 件（ 36 件）
中近東アフリカ	7 件（ 4 件）
アジア太平洋	36 件（ 35 件）
合 計	195 件（134 件）

※（ ）内の数字は、平成 18 年度のもの。

(3) 第4回文化庁映画週間

第20回東京国際映画祭開催に合わせて、文化庁の業務委託事業として実施。内容は以下のとおりである。

①平成19年度（第5回）文化庁映画賞贈呈式

・文化記録映画部門受賞作品：

文化記録映画大賞 『ひめゆり』（監督：柴田昌平）

文化記録映画優秀賞 『有明に生きて 100人に聞く、海と漁の歴史と証言』

（監督：岩永勝敏）

『ブライト in ブルー』（監督：中村和彦）

・映画功労表彰部門受賞者：

岡安肇（映画編集）、黒澤満（映画プロデュース）、鍋島惇（映画編集）、

安本東清（映画機材）、山田宏一（映画評論）

②第4回世界映画人会議

・「映画人とは～国境を越える映画の力」：

東京国際映画祭に集う世界の映画人の紹介とディスカッション

・「世界の若手アニメーターの現状～カナダ、ドイツ、フランス、そして日本～」：

個人作家が中心となる短編アニメーションの現状を、カナダ、ドイツ、フランス、日本から報告

③第4回全国映画祭コンベンション

・「映画館の中のこども～コミュニティシネマの未来～」：

「こども映画館」や「こども映画教室」などの活動を海外の事例も含めて紹介

④第5回全国フィルムコミッション・コンベンション

・「歴史文化地域におけるフィルムコミッション活動～『第三の男』から『ダ・ヴィンチ・コード』まで～」：歴史遺産、文化遺産を有する地域での撮影はどのように行われるか、ウィーン、エジンバラからの報告に加えて国内での活動を紹介（ジャパン・ロケーション・マーケット 2007 共同企画）

(4) ジャパン・ロケーション・マーケット 2007

第20回東京国際映画祭開催に合わせて、経済産業省の業務委託事業として株式会社コムブリッジと共同で実施。全国の魅力的なロケーションを広く発信し、国内外の製作者と撮影を受入れる地域とのマッチングの場を提供することを目的とした。内容は以下のとおりである。

①JLM セミナー：

- ・「FC スキルの基礎から問題解決まで」
- ・「地域資源活用の観点からみた映画製作の作品事例」

②JLM シンポジウム：

- ・「海外製作者から見たロケ地としての日本」
- ・「求められる地域コンテンツの今後～地域活性化と、世界に通用する良質なコンテンツ創造のために～」

③JLM 交流会

④第5回文化庁全国フィルムコミッション・コンベンション（文化庁映画週間共同企画）

4. 情報発信事業

日本映画の海外への情報発信

(1) 日本映画ウェブサイト「www.unijapan.org」の運営

日本自転車振興会の補助を受け、本財団の自主事業として平成15年に開始した。平成19年度は、日本映画データベース（JFDB）のプログラム開発に合わせて、サイトデザインを一新、掲載情報の拡大、サイトの見やすさを目指した。

- ①内容：ユニジャパンの事業案内、映画関連ニュース、国内外の映画産業情報、映画祭情報、映画支援情報を掲載、また日本映画データベース（JFDB）、J-Pitch 公式サイト、東京国際映画祭公式サイトともリンクすることでサイトのコンテンツ充実を図った。
- ②広報：ウェブサイトの認知をより海外に広げるために、カンヌ映画祭、ベルリン映画祭にて発行された「VARIETY」誌、「Screen International」誌に広告を掲載した。

(2) 海外向け日本映画年鑑「Japanese Film 2008」の出版

1974年（昭和49年）より継続している海外向け日本映画年鑑。文化庁「芸術団体人材育成支援事業」の業務委託を受けて、編集・発行・配布を行なった（平成20年3月、3,000部発行）。掲載内容は以下のとおり。

①掲載作品：

2007年1月～12月に劇場公開された日本映画の内、主要な作品80本を選んで日本語・英語併記で紹介する。

掲載作品の選考は河原畑寧委員長主宰の審査委員会による。以下の3点の選考基準を基に可能な限り多様な作品ラインナップを図った。

- ・興行収入ランキング上位作品
- ・国内での主要な映画賞受賞作品
- ・海外での主要な映画祭招待作品

②2007年日本映画産業データ：

日本映画製作者連盟、外国映画輸入配給協会が発表する映画産業データ（興行収入10億円以上の日本映画、映画封切本数、入場者数、平均入場料金、興行収入、スクリーン数、外国映画封切本数）を英訳して掲載。

③ 日本映画産業リスト：

項 目	掲載社数
映画・映像関連団体	31 (31)
映画製作会社	111 (105)
アニメーション製作会社	27 (28)
映画配給会社	70 (69)
現像所・映画機材他	17 (18)
フィルム・コミッション	100 (99)
映画祭（国内）	25 (26)
映画学校	25 (26)
ファンド	5 (6)

※掲載の承諾が確認できた団体、企業、フィルム・コミッション、学校等を掲載。

※()内の数字は、平成 18 年度のもの。

④配布：

国内：文化庁及び関係官庁、在日外国公館、情報提供を受けた映画団体及び企業

海外：カンヌ、トロント、プサン、東京、AFM（ロサンゼルス）、ベルリン、香港など
主要映画祭及び見本市、在外日本公館

(3) 海外向け新作日本映画カタログ「New Cinema from Japan」の出版

国際交流基金との共同事業として、平成 15 年度より継続して発行している海外向け日本映画新作カタログ。「Japanese Film」が前年に公開された日本映画を紹介する年鑑として出版されるのに対して、「New Cinema from Japan」は未公開作を含む新作を紹介する日本映画カタログであり、作品掲載は有料（1 作品 5 万円、追加作品は 1 作品につき 2 万円）。国内外の映画関係者よりセールスツールとして認知されている。

①発行：

- ・ 5 月と 10 月の年 2 回、各 4,000 部発行
- ・ 2007 年春号（5 月発行） 33 作品を紹介
- ・ 2007 年秋号（10 月発行） 40 作品を紹介

②配布：

- ・ カンヌ、トロント、プサン、東京、AFM（ロサンゼルス）、ベルリン、香港など、主要映画祭及び見本市
- ・ 在外日本公館、及び国際交流基金の海外事務所

平成 19 年度
(2007 年度)

決算報告書

自平成 19 年 4 月 1 日

至平成 19 年 3 月 31 日

財団法人日本映像国際振興協会

収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入	25,000	25,040	△ 40	
基本財産利息収入	25,000	25,040	△ 40	
②会費収入	84,500,000	81,500,000	3,000,000	
賛助会員会費収入	84,500,000	81,500,000	3,000,000	
③事業収入	788,390,000	753,050,040	35,339,960	
(1)業 務 受 託 料 収 入	444,368,000	423,339,177	21,028,823	
a) 経済産業省	325,000,000	301,208,830	23,791,170	※ 1
b) 文 化 庁	116,250,000	119,015,312	△ 2,765,312	
c) 港 区	3,118,000	3,115,035	2,965	
(2)入 場 料 収 入	55,000,000	50,706,400	4,293,600	
(3)企画スポンサー収入	272,412,000	249,090,000	23,322,000	※ 2
(4)そ の 他 の 収 入	16,610,000	29,914,463	△ 13,304,463	※ 3
④補助金・分担金収入	121,346,000	118,876,453	2,469,547	
(1)日本自転車振興会	41,646,000	39,176,453	2,469,547	
(2)文 化 庁	47,000,000	47,000,000	0	
(3)国 際 交 流 基 金	1,600,000	1,600,000	0	
(4)東 京 都	30,000,000	30,000,000	0	
(5)渋 谷 区	1,100,000	1,100,000	0	
⑤寄付金収入	107,000,000	105,000,000	2,000,000	
⑥負担金収入	5,650,000	22,118,841	△ 16,468,841	※ 4
⑦雑 収 入	1,315,000	2,919,873	△ 1,604,873	
(1)運用財産利息収入	120,000	413,058	△ 293,058	
(2)その他の収入	1,195,000	2,506,815	△ 1,311,815	
事業活動収入計	1,108,226,000	1,083,490,247	24,735,753	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
2. 事業活動支出				
①事業費支出	1,081,624,000	1,053,600,007	29,749,693	
(1)国際映画祭事業費	782,764,000	766,041,051	16,722,949	
a)コンペティション費	74,340,000	78,591,749	△ 4,251,749	※ 5
b)特別招待作品費	3,035,000	3,989,684	△ 954,684	
c)ア ジ ア の 風 費	57,440,000	59,272,002	△ 1,832,002	
d)日本映画・ある視点費	9,465,000	7,148,565	2,316,435	※ 6
e)開 催 費	584,254,000	566,790,575	17,463,425	※ 7
f)アニメックス・TIFF費	3,000,000	1,335,525	1,664,475	
g)ニッポン・シネマ・クラシック費	3,000,000	2,937,919	62,081	
h)顕彰助成事業費	27,940,000	23,762,192	4,177,808	※ 8
i)その他新企画費	20,290,000	22,212,840	△ 1,922,840	
(2)国際振興支援事業費	241,750,000	243,685,259	△ 1,935,259	
a)映画祭展示支援事業費	27,000,000	29,469,828	△ 2,469,828	※ 9
b)映画祭出品支援事業費	58,750,000	66,692,592	△ 7,942,592	※ 10
c)国際共同製作支援事業費	156,000,000	147,522,839	8,477,161	※ 11
(3)調査・研究事業費	43,000,000	31,534,692	11,465,308	※ 12
(4)情報発信事業費	14,110,000	12,339,005	1,770,995	
②管理費支出	63,694,000	62,488,667	1,205,333	
事業活動支出計	1,145,318,000	1,116,088,674	29,229,326	
事業活動収支差額	△ 37,092,000	△ 32,598,427	△ 4,493,573	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
映画祭事業積立預金取崩収入	0	50,500,000	△ 50,500,000	※ 13
投資活動収入計	0	50,500,000	△ 50,500,000	
2. 投資活動支出				
退職給付引当預金支出	90,000	89,700	300	
固定資産取得支出	0	168,000	△ 168,000	
映画祭事業積立預金支出	0	50,500,000	△ 50,500,000	※ 14
投資活動支出計	90,000	50,757,700	△ 50,667,700	
投資活動収支差額	△ 90,000	△ 257,700	167,700	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
借入金収入	120,000,000	170,000,000	△ 50,000,000	
財務活動収入計	120,000,000	170,000,000	△ 50,000,000	
2. 財務活動支出				
借入金返済支出	120,000,000	120,000,000	0	
財務活動支出計	120,000,000	120,000,000	0	
財務活動収支差額	0	50,000,000	△ 50,000,000	
当期収支差額	△ 37,182,000	17,143,873	△ 54,325,873	
前期繰越収支差額	218,004,139	218,004,139	0	
次期繰越収支差額	180,822,139	235,148,012	△ 54,325,873	

(注) 1. 借入金差額 450,000千円
2. 債務負担額 なし

<備 考>

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| ※1. 受託事業ロケーションマーケット減 | ※8. 黒澤賞賞金額減 |
| ※2. オフィシャルパートナー賛助金減 | ※9. 文化庁予算増 |
| ※3. ロケーションマーケット再委託収入増 | ※10. 文化庁予算増 |
| ※4. 協賛企画負担金収入増(予算外) | ※11. プロデューサー派遣基準レベルアップによる派遣数減 |
| ※5. 航空運賃値上げ | ※12. ロケーションマーケットが再委託に変わったための支出費減 |
| ※6. 上映本数減 | ※13. つなぎ資金として利用 |
| ※7. スポンサー施策費減 | ※14. つなぎ資金利用分積立 |

事業活動支出内訳

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 事業活動支出				
1 事業費支出				
(1) 国際映画祭事業	782,764,000	766,041,051	16,722,949	
① コンペティション費支出	74,340,000	78,591,749	△ 4,251,749	
臨時雇 用 賃金支出	0	645,440	△ 645,440	
会 議 費支出	1,600,000	318,161	1,281,839	
旅 費 交 通 費支出	27,980,000	31,844,935	△ 3,864,935	
通 信 運 搬 費支出	1,600,000	942,526	657,474	
消耗什器備品費支出	0	2,580	△ 2,580	
消 耗 品 費支出	100,000	41,615	58,385	
図 書 新 聞 費支出	0	6,169	△ 6,169	
印 刷 製 本 費支出	0	225,300	△ 225,300	
賃 借 料支出	500,000	859,369	△ 359,369	
謝 金支出	2,560,000	2,475,000	85,000	
租 税 公 課支出	0	98,863	△ 98,863	
委 託 費支出	39,400,000	39,195,844	204,156	
諸 手 数 料支出	100,000	47,796	52,204	
雑 費支出	500,000	1,888,151	△ 1,388,151	
② 特別招待作品費支出	3,035,000	3,989,684	△ 954,684	
会 議 費支出	0	1,100	△ 1,100	
旅 費 交 通 費支出	250,000	81,020	168,980	
通 信 運 搬 費支出	35,000	40,866	△ 5,866	
消 耗 品 費支出	30,000	6,662	23,338	
委 託 費支出	2,700,000	3,860,036	△ 1,160,036	
諸 手 数 料支出	20,000	0	20,000	
③ アジアの風費支出	57,440,000	59,272,002	△ 1,832,002	
臨時雇 用 賃金支出	0	482,560	△ 482,560	
会 議 費支出	800,000	229,555	570,445	
旅 費 交 通 費支出	10,370,000	10,122,499	247,501	
通 信 運 搬 費支出	2,020,000	3,150,081	△ 1,130,081	
消耗什器備品費支出	0	3,906	△ 3,906	
消 耗 品 費支出	50,000	22,653	27,347	
図 書 新 聞 費支出	0	11,307	△ 11,307	
賃 借 料支出	750,000	703,050	46,950	
保 険 料支出	0	21,250	△ 21,250	
謝 金支出	600,000	666,666	△ 66,666	
租 税 公 課支出	0	29,698	△ 29,698	
委 託 費支出	42,800,000	42,863,920	△ 63,920	
諸 手 数 料支出	50,000	21,211	28,789	
雑 費支出	0	943,646	△ 943,646	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
④日本映画・ある視点費支出	9,465,000	7,148,565	2,316,435	
会 議 費支出	600,000	18,840	581,160	
旅 費 交 通 費支出	200,000	316,080	△ 116,080	
通 信 運 搬 費支出	35,000	4,812	30,188	
消 耗 品 費支出	20,000	3,349	16,651	
図 書 新 聞 費支出	0	680	△ 680	
賃 借 料支出	300,000	0	300,000	
謝 金支出	300,000	325,000	△ 25,000	
委 託 費支出	8,000,000	6,006,442	1,993,558	
諸 手 数 料支出	10,000	2,205	7,795	
雑 費支出	0	471,157	△ 471,157	
⑤開 催 費支出	584,254,000	566,790,575	17,463,425	
給 与 手 当支出	4,320,000	4,320,000	0	
臨時雇 用 賃金支出	840,000	2,203,000	△ 1,363,000	
法 定 福 利 費支出	578,000	519,882	58,118	
会 議 費支出	2,346,000	949,505	1,396,495	
旅 費 交 通 費支出	13,479,000	15,751,991	△ 2,272,991	
通 信 運 搬 費支出	5,477,000	6,355,713	△ 878,713	
消耗什器備品費支出	2,180,000	286,231	1,893,769	
消 耗 品 費支出	984,000	1,608,270	△ 624,270	
図 書 新 聞 費支出	0	14,444	△ 14,444	
印 刷 製 本 費支出	23,016,000	4,927,248	18,088,752	
光 熱 水 料 費支出	0	162,147	△ 162,147	
賃 借 料支出	105,372,000	81,964,755	23,407,245	
保 険 料支出	1,700,000	1,779,822	△ 79,822	
謝 金支出	0	219,000	△ 219,000	
租 税 公 課支出	0	1,725,700	△ 1,725,700	
委 託 費支出	404,757,000	439,719,276	△ 34,962,276	
諸 手 数 料支出	4,735,000	465,280	4,269,720	
雑 費支出	14,470,000	3,818,311	10,651,689	
⑥アニメックス・TIFF費支出	3,000,000	1,335,525	1,664,475	
臨時雇 用 賃金支出	0	16,000	△ 16,000	
旅 費 交 通 費支出	0	15,784	△ 15,784	
通 信 運 搬 費支出	0	9,626	△ 9,626	
消 耗 品 費支出	0	5,443	△ 5,443	
賃 借 料支出	3,000,000	0	3,000,000	
謝 金支出	0	22,222	△ 22,222	
委 託 費支出	0	1,266,450	△ 1,266,450	
⑦ニッポン・シネマ・クラシック費支出	3,000,000	2,937,919	62,081	
委 託 費支出	3,000,000	2,937,604	62,396	
諸 手 数 料支出	0	315	△ 315	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
⑧顕彰助成事業費支出	27,940,000	23,762,192	4,177,808	
旅 費 交 通 費支出	0	2,175,502	△ 2,175,502	
印 刷 製 本 費支出	160,000	47,092	112,908	
謝 金支出	0	312,221	△ 312,221	
委 託 費支出	1,780,000	0	1,780,000	
諸 手 数 料支出	0	53,835	△ 53,835	
雑 費支出	200,000	723,242	△ 523,242	
コンパティション賞金支出	10,400,000	11,300,900	△ 900,900	
アジア映画賞賞金支出	1,200,000	1,139,400	60,600	
ある視 点 賞金支出	2,000,000	2,000,000	0	
黒澤明 賞 賞金支出	12,000,000	5,900,000	6,100,000	
そ の 他 賞 金支出	200,000	110,000	90,000	
⑨その他新企画費支出	20,290,000	22,212,840	△ 1,922,840	
臨時雇 用 賃金支出	0	56,000	△ 56,000	
会 議 費支出	600,000	3,390	596,610	
旅 費 交 通 費支出	300,000	869,798	△ 569,798	
通 信 運 搬 費支出	70,000	210,261	△ 140,261	
消 耗 品 費支出	10,000	6,900	3,100	
図 書 新 聞 費支出	0	1,150	△ 1,150	
印 刷 製 本 費支出	0	347,640	△ 347,640	
賃 借 料支出	1,400,000	1,837,610	△ 437,610	
保 険 料支出	0	3,600	△ 3,600	
謝 金支出	300,000	531,108	△ 231,108	
委 託 費支出	16,100,000	18,285,893	△ 2,185,893	
諸 手 数 料支出	10,000	13,575	△ 3,575	
雑 費支出	1,500,000	45,915	1,454,085	
(2) 国際振興支援事業費支出	241,750,000	243,685,259	△ 1,935,259	
①映画祭展示支援事業費支出	27,000,000	29,469,828	△ 2,469,828	
会 議 費支出	120,000	159,746	△ 39,746	
旅 費 交 通 費支出	3,600,000	5,280,879	△ 1,680,879	
通 信 運 搬 費支出	120,000	1,529,779	△ 1,409,779	
消耗什器備品費支出	240,000	2,228	237,772	
消 耗 品 費支出	120,000	57,910	62,090	
図 書 新 聞 費支出	0	3,240	△ 3,240	
印 刷 製 本 費支出	300,000	9,641	290,359	
賃 借 料支出	7,600,000	5,926,150	1,673,850	
保 険 料支出	300,000	69,484	230,516	
租 税 公 課支出	120,000	5,400	114,600	
委 託 費支出	14,240,000	15,783,659	△ 1,543,659	
諸 手 数 料支出	60,000	93,873	△ 33,873	
雑 費支出	180,000	547,839	△ 367,839	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
②映画祭出品支援事業費支出	58,750,000	66,692,592	△ 7,942,592	
給 与 手 当支出	4,250,000	4,248,000	2,000	
法 定 福 利 費支出	630,000	531,437	98,563	
会 議 費支出	30,000	82,568	△ 52,568	
旅 費 交 通 費支出	30,000	607,010	△ 577,010	
通 信 運 搬 費支出	60,000	43,866	16,134	
消耗什器備品費支出	30,000	0	30,000	
消 耗 品 費支出	60,000	91,169	△ 31,169	
印 刷 製 本 費支出	300,000	271,950	28,050	
賃 借 料支出	240,000	127,139	112,861	
謝 金支出	420,000	300,000	120,000	
租 税 公 課支出	120,000	0	120,000	
委 託 費支出	11,720,000	10,567,564	1,152,436	
諸 手 数 料支出	30,000	20,465	9,535	
字 幕 補 助 費支出	40,000,000	49,783,424	△ 9,783,424	
雑 費支出	830,000	18,000	812,000	
③国際共同製作支援事業費支出	156,000,000	147,522,839	8,477,161	
給 与 手 当支出	8,160,000	4,920,000	3,240,000	
法 定 福 利 費支出	956,000	597,151	358,849	
会 議 費支出	600,000	127,637	472,363	
旅 費 交 通 費支出	21,510,000	16,032,490	5,477,510	
通 信 運 搬 費支出	1,200,000	1,188,923	11,077	
消耗什器備品費支出	1,200,000	71,910	1,128,090	
消 耗 品 費支出	480,000	71,337	408,663	
図 書 新 聞 費支出	320,000	244,999	75,001	
印 刷 製 本 費支出	6,000,000	2,735,030	3,264,970	
賃 借 料支出	12,100,000	4,437,473	7,662,527	
保 險 料支出	550,000	54,930	495,070	
謝 金支出	12,500,000	2,827,886	9,672,114	
租 税 公 課支出	240,000	10,000	230,000	
委 託 費支出	89,774,000	111,037,405	△ 21,263,405	
諸 手 数 料支出	90,000	228,725	△ 138,725	
雑 費支出	320,000	2,936,943	△ 2,616,943	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(3) 調査・研究事業費支出	43,000,000	31,534,692	11,465,308	
給 与 手 当支出	1,500,000	0	1,500,000	
法 定 福 利 費支出	319,000	0	319,000	
会 議 費支出	150,000	1,050	148,950	
旅 費 交 通 費支出	1,600,000	941,365	658,635	
通 信 運 搬 費支出	70,000	51,195	18,805	
消耗什器備品費支出	70,000	0	70,000	
消 耗 品 費支出	70,000	2,170	67,830	
印 刷 製 本 費支出	6,160,000	40,320	6,119,680	
賃 借 料支出	4,600,000	98,112	4,501,888	
謝 金支出	3,800,000	0	3,800,000	
租 税 公 課支出	90,000	1,000	89,000	
委 託 費支出	24,361,000	29,216,074	△ 4,855,074	
諸 手 数 料支出	60,000	630	59,370	
雑 費支出	150,000	1,182,776	△ 1,032,776	
(4) 情報発信事業費支出	14,110,000	12,339,005	1,770,995	
会 議 費支出	50,000	0	50,000	
旅 費 交 通 費支出	120,000	2,760	117,240	
通 信 運 搬 費支出	60,000	39,923	20,077	
消耗什器備品費支出	120,000	0	120,000	
消 耗 品 費支出	60,000	0	60,000	
印 刷 製 本 費支出	2,800,000	1,037,400	1,762,600	
賃 借 料支出	360,000	945,000	△ 585,000	
謝 金支出	120,000	22,222	97,778	
租 税 公 課支出	60,000	0	60,000	
委 託 費支出	10,270,000	10,282,445	△ 12,445	
諸 手 数 料支出	30,000	9,255	20,745	
雑 費支出	60,000	0	60,000	

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(5) 管 理 費 支 出	63,694,000	62,488,667	1,205,333	
給 与 手 当支出	12,144,000	12,024,000	120,000	
法 定 福 利 費支出	1,530,000	1,368,381	161,619	
福 利 厚 生 費支出	1,300,000	277,951	1,022,049	
会 議 費支出	760,000	707,615	52,385	
旅 費 交 通 費支出	1,380,000	1,076,770	303,230	
通 信 運 搬 費支出	1,600,000	1,776,188	△ 176,188	
消耗什器備品費支出	220,000	393,953	△ 173,953	
消 耗 品 費支出	1,020,000	646,477	373,523	
図 書 新 聞 費支出	380,000	469,546	△ 89,546	
印 刷 製 本 費支出	500,000	1,777,248	△ 1,277,248	
光 熱 水 料 費支出	1,600,000	1,528,611	71,389	
賃 借 料支出	19,000,000	18,128,160	871,840	
保 險 料支出	0	314,000	△ 314,000	
役 務 費支出	2,100,000	2,100,000	0	
租 税 公 課支出	850,000	706,500	143,500	
委 託 費支出	17,240,000	17,472,921	△ 232,921	
支 払 利 息支出	670,000	96,062	573,938	
諸 手 数 料支出	600,000	585,720	14,280	
雑 費支出	800,000	1,038,564	△ 238,564	
事業活動支出	1,145,318,000	1,116,088,674	29,229,326	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収入金、前払金、立替金、仮払金、未払金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載しておりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資金及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	125,176,488	113,757,998
未収会費	4,000,000	1,000,000
未収入金	203,267,953	211,139,923
前払金	2,285,271	2,817,758
立替金	92,641	703,600
仮払金	0	228,214
合 計	334,822,353	329,647,493
未払金	114,799,033	93,236,276
預り金	2,019,181	1,263,205
合 計	116,818,214	94,499,481
次期繰越収支差額	218,004,139	235,148,012

委 託 費 内 訳

(単位:円)

科 目	金 額	発 注 先
1. 事 業 費	731,153,872	
(1) 国際映画祭事業費	554,135,465	
コンペティション費	39,195,844	上映関係費(イマジカ、アテネフランセ 他) 通関字幕製作費(日本シネアーツ) 業務契約料(審査員、通訳 他)
特別招待作品費	3,860,036	業務契約料(司会、通訳 他)
アジアの風費	42,863,920	字幕製作費(アテネフランセ、日本シネアーツ 他) 通関費(日本シネアーツ) 業務契約料(司会、通訳 他)
日本映画・ある視点費	6,006,442	業務契約料(字幕製作費 他)
アニメックス・TIFF 費	1,266,450	業務契約料(司会料 他)
ニッポン・シネマクラシック費	2,937,604	分担金(映団連)
開 催 費	439,719,276	広報宣伝費(東宝アド、エヌ・ティ・ティ・ビズリンク、電通、 東京タカラ商会、バカザバッカ) 運営費(本多芸能スポーツ、シティ警備、サンデザイン研究所、 東急百貨店サービス、東急レクリエーション、クオラス) 業務契約料(翻訳料 他)
そ の 他 新 企 画	18,285,893	通関費(日本シネアーツ) 業務契約料(通訳 他)
(2) 国際振興支援事業費	135,419,888	業務契約料(通訳、イマジカ、ICSコンベンションデザイン、 野村総合研究所、スキップシティ 他) 会場運営費(ビィ・ウィズ)
(3) 調査・研究事業費	29,216,074	業務契約料(ブースタープロジェクト、翻訳料 他)
(4) 情報発信事業費	12,382,445	業務契約料(メディアネット、デザインルームグラフ 他)
2. 管 理 費	17,472,921	業務契約料(東映エージェンシー、浜村会計事務所 他) 清掃費(東京不動産管理)

貸借対照表

平成20年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	113,757,998	125,176,488	△ 11,418,490
未収会費	1,000,000	4,000,000	△ 3,000,000
未収入金	211,139,923	203,267,953	7,871,970
貯蔵品	0	465,600	△ 465,600
前払金	2,817,758	2,285,271	532,487
立替金	703,600	92,641	610,959
仮払金	228,214	0	228,214
流動資産合計	329,647,493	335,287,953	△ 5,640,460
2. 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2)特定資産			
退職給付引当預金	846,200	756,500	89,700
映画祭事業積立預金	85,000,000	85,000,000	0
特定資産合計	85,846,200	85,756,500	89,700
(3)その他固定資産			
什器備品	486,223	376,464	109,759
電話加入権	180,200	180,200	0
ソフトウェア	220,960	291,834	△ 70,874
敷金	5,320,800	5,320,800	0
その他の固定資産合計	6,208,183	6,169,298	38,885
固定資産合計	102,054,383	101,925,798	128,585
資産合計	431,701,876	437,213,751	△ 5,511,875
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	93,236,276	114,799,033	△ 21,562,757
預り金	1,263,205	2,019,181	△ 755,976
短期借入金	170,000,000	120,000,000	50,000,000
流動負債合計	264,499,481	236,818,214	27,681,267
2. 固定負債			
退職給付引当金	846,200	756,500	89,700
固定負債合計	846,200	756,500	89,700
負債合計	265,345,681	237,574,714	27,770,967
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	166,356,195	199,639,037	△ 33,282,842
(うち 基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0,000)
(うち 特定資産への充当額)	(85,000,000)	(85,000,000)	(0,000)
一般正味財産合計	166,356,195	199,639,037	△ 33,282,842
正味財産合計	166,356,195	199,639,037	△ 33,282,842
負債及び正味財産合計	431,701,876	437,213,751	△ 5,511,875

正味財産増減計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
①経常収益			
(1)基本財産運用収入	25,040	1,999	23,041
基本財産利息収入	25,040	1,999	23,041
(2)会費収入	81,500,000	85,500,000	△ 4,000,000
賛助会員会費収入	81,500,000	85,500,000	△ 4,000,000
(3)事業収入	753,050,040	817,055,285	△ 64,005,245
(a)業 務 受 託 料 収 入	423,339,177	453,305,686	△ 29,966,509
経 済 産 業 省	301,208,830	344,970,389	△ 43,761,559
文 化 庁	119,015,312	105,216,797	13,798,515
港 区	3,115,035	3,118,500	△ 3,465
(b)入 場 料 収 入	50,706,400	54,899,270	△ 4,192,870
(c)企画スポンサー収入	249,090,000	278,768,775	△ 29,678,775
(d)そ の 他 の 収 入	29,914,463	30,081,554	△ 167,091
(4)補助金・分担金収入	118,876,453	136,381,540	△ 17,505,087
(a)日本自転車振興会	39,176,453	41,224,038	△ 2,047,585
(b)文 化 庁	47,000,000	52,500,000	△ 5,500,000
(c)国 際 交 流 基 金	1,600,000	11,557,502	△ 9,957,502
(d)東 京 都	30,000,000	30,000,000	0
(e)渋 谷 区	1,100,000	1,100,000	0
(5)寄付金収入	105,000,000	110,000,000	△ 5,000,000
(6)負担金収入	22,118,841	15,925,418	6,193,423
(7)雑 収 入	2,919,873	867,803	2,052,070
(a)運用財産利息収入	413,058	156,341	256,717
(b)その他の収入	2,506,815	711,462	1,795,353
経常収益計	1,083,490,247	1,165,732,045	△ 82,241,798

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
②経常費用			
(1)国際映画祭事業費	766,506,651	788,549,427	△ 22,042,776
a)コンペティション費	78,591,749	75,097,538	3,494,211
b)特別招待作品費	3,989,684	2,519,353	1,470,331
c)アジアの風費	59,272,002	63,366,851	△ 4,094,849
d)日本映画・ある視点費	7,148,565	9,399,846	△ 2,251,281
e)開 催 費	567,256,175	594,939,025	△ 27,682,850
f)アニメックス・TIFF費	1,335,525	1,605,283	△ 269,758
g)ニッポン・シネマ・クラシック費	2,937,919	2,954,534	△ 16,615
h)顕彰助成事業費	23,762,192	33,403,104	△ 9,640,912
i)その他新企画費	22,212,840	5,263,893	16,948,947
(2)国際振興支援事業費	243,685,259	269,362,042	△ 25,676,783
a)映画祭展示支援事業費	29,469,828	46,603,380	△ 17,133,552
b)映画祭出品支援事業費	66,692,592	44,484,873	22,207,719
c)国際共同製作支援事業費	147,522,839	178,273,789	△ 30,750,950
(3)調査・研究事業費	31,534,692	312,254	31,222,438
(4)情報発信事業費	12,339,005	15,684,558	△ 3,345,553
(5)管 理 費	62,707,482	59,230,890	3,476,592
経常費用計	1,116,773,089	1,133,139,171	△ 16,366,082
当期経常増減額	△ 33,282,842	32,592,874	△ 65,875,716
2. 経常外増減の部			
①経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
②経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 33,282,842	32,592,874	△ 65,875,716
一般正味財産期首残高	199,639,037	167,046,163	32,592,874
一般正味財産期末残高	166,356,195	199,639,037	△ 33,282,842
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	166,356,195	199,639,037	△ 33,282,842

経常費用内訳

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 経常費用内訳			
(1) 国際映画祭事業	766,506,651	788,549,427	△ 22,042,776
① コンペティション費	78,591,749	75,097,538	3,494,211
臨時雇用賃金	645,440	0	645,440
会議費	318,161	975,145	△ 656,984
旅費交通費	31,844,935	23,963,118	7,881,817
通信運搬費	942,526	1,596,305	△ 653,779
消耗什器備品費	2,580	0	2,580
消耗品費	41,615	63,399	△ 21,784
図書新聞費	6,169	45,086	△ 38,917
印刷製本費	225,300	29,001	196,299
賃借料	826,809	1,576,740	△ 749,931
保険料	32,560	13,000	19,560
謝金	2,475,000	2,565,000	△ 90,000
租税公課	98,863	33,910	64,953
委託費	39,195,844	42,668,927	△ 3,473,083
諸手数料	47,796	25,645	22,151
雑費	1,888,151	1,542,262	345,889
② 特別招待作品費	3,989,684	2,519,353	1,470,331
会議費	1,100	26,000	△ 24,900
旅費交通費	81,020	134,590	△ 53,570
通信運搬費	40,866	33,501	7,365
消耗品費	6,662	1,165	5,497
賃借料	0	138,987	△ 138,987
委託費	3,860,036	2,185,110	1,674,926
諸手数料	0	0	0
③ アジアの風費	59,272,002	63,366,851	△ 4,094,849
臨時雇用賃金	482,560	0	482,560
会議費	229,555	995,969	△ 766,414
旅費交通費	10,122,499	10,275,274	△ 152,775
通信運搬費	3,150,081	2,019,739	1,130,342
消耗什器備品費	3,906	0	3,906
消耗品費	22,653	4,496	18,157
図書新聞費	11,307	25,164	△ 13,857
印刷製本費	0	0	0
賃借料	703,050	1,743,066	△ 1,040,016
保険料	21,250	9,210	12,040
謝金	666,666	600,000	66,666
租税公課	29,698	1,100	28,598
委託費	42,863,920	47,563,568	△ 4,699,648
諸手数料	21,211	36,995	△ 15,784
雑費	943,646	92,270	851,376

科 目	当年度	前年度	増 減
④日本映画・ある視点費	7,148,565	9,399,846	△ 2,251,281
会 議 費	18,840	100,865	△ 82,025
旅 費 交 通 費	316,080	559,830	△ 243,750
通 信 運 搬 費	4,812	31,513	△ 26,701
消 耗 品 費	3,349	5,313	△ 1,964
図 書 新 聞 費	680	0	680
賃 借 料	0	193,016	△ 193,016
謝 金	325,000	300,000	25,000
委 託 費	6,006,442	8,191,165	△ 2,184,723
諸 手 数 料	2,205	0	2,205
雑 費	471,157	18,144	453,013
⑤開 催 費	567,256,175	594,939,025	△ 27,682,850
給 与 手 当	4,320,000	3,195,000	1,125,000
臨時雇 用 賃金	2,203,000	1,641,000	562,000
法 定 福 利 費	519,882	371,686	148,196
会 議 費	949,505	1,261,921	△ 312,416
旅 費 交 通 費	15,751,991	19,366,607	△ 3,614,616
通 信 運 搬 費	6,821,313	12,643,938	△ 5,822,625
什 器 備 品 費	0	91,917	△ 91,917
消耗什器備品費	286,231	1,634,405	△ 1,348,174
消 耗 品 費	1,608,270	764,282	843,988
図 書 新 聞 費	14,444	58,660	△ 44,216
印 刷 製 本 費	4,927,248	5,856,663	△ 929,415
光 熱 水 料 費	162,147	65,535	96,612
賃 借 料	81,964,755	81,499,346	465,409
保 險 料	1,779,822	1,683,769	96,053
謝 金	219,000	306,367	△ 87,367
租 税 公 課	1,725,700	101,400	1,624,300
委 託 費	439,719,276	443,936,029	△ 4,216,753
諸 手 数 料	465,280	4,767,028	△ 4,301,748
雑 費	3,818,311	15,693,472	△ 11,875,161
⑥アニメックス・TIFF費	1,335,525	1,605,283	△ 269,758
臨時雇 用 賃金	16,000	0	16,000
旅 費 交 通 費	15,784	0	15,784
通 信 運 搬 費	9,626	0	9,626
消 耗 品 費	5,443	0	5,443
賃 借 料	0	796,783	△ 796,783
謝 金	22,222	0	22,222
委 託 費	1,266,450	808,500	457,950
⑦ニッポン・シネマ・クラシック費	2,937,919	2,954,534	△ 16,615
委 託 費	2,937,604	2,954,534	△ 16,930
諸 手 数 料	315	0	315

科 目	当年度	前年度	増 減
⑧顕彰助成事業費	23,762,192	33,403,104	△ 9,640,912
旅 費 交 通 費	2,175,502	0	
通 信 運 搬 費	0	8,280	△ 8,280
印 刷 製 本 費	47,092	174,258	△ 127,166
謝 金	312,221	200,000	112,221
委 託 費	0	1,365,000	△ 1,365,000
諸 手 数 料	53,835	44,866	8,969
雑 費	723,242	0	723,242
コンパ [°] ティション賞金	11,300,900	16,628,700	△ 5,327,800
アジア映画賞賞金	1,139,400	1,189,000	△ 49,600
ある視 点 賞金	2,000,000		2,000,000
黒澤明 賞 賞金	5,900,000	11,703,000	△ 5,803,000
そ の 他 賞 金	110,000	2,090,000	△ 1,980,000
⑨その他新企画費	22,212,840	5,263,893	16,948,947
臨時雇 用 賃金	56,000		56,000
会 議 費	3,390	101,208	△ 97,818
旅 費 交 通 費	869,798	119,540	750,258
通 信 運 搬 費	210,261	106,067	104,194
消 耗 品 費	6,900	27,240	△ 20,340
図 書 新 聞 費	1,150	0	1,150
印 刷 製 本 費	347,640	101,000	246,640
賃 借 料	1,837,610	2,079,661	△ 242,051
保 険 料	3,600	0	3,600
謝 金	531,108	266,664	264,444
委 託 費	18,285,893	2,456,148	15,829,745
諸 手 数 料	13,575	630	12,945
雑 費	45,915	5,735	40,180
(2)国際振興支援事業	243,685,259	269,362,042	△ 25,676,783
①映画祭展示支援事業費	29,469,828	46,603,380	△ 17,133,552
給 与 手 当	0	4,080,000	△ 4,080,000
法 定 福 利 費	0	550,691	△ 550,691
会 議 費	159,746	291,514	△ 131,768
旅 費 交 通 費	5,280,879	6,816,242	△ 1,535,363
通 信 運 搬 費	1,529,779	1,846,432	△ 316,653
消耗什器備品費	2,228	0	2,228
消 耗 品 費	57,910	151,600	△ 93,690
図 書 新 聞 費	3,240	0	3,240
印 刷 製 本 費	9,641	65,400	△ 55,759
賃 借 料	5,926,150	9,487,080	△ 3,560,930
保 険 料	69,484	29,320	40,164
謝 金	0	140,000	△ 140,000
租 税 公 課	5,400	60,400	△ 55,000
委 託 費	15,783,659	21,698,972	△ 5,915,313
諸 手 数 料	93,873	229,875	△ 136,002
雑 費	547,839	1,155,854	△ 608,015

科 目	当年度	前年度	増 減
②映画祭出品支援事業費	66,692,592	44,484,873	22,207,719
給 与 手 当	4,248,000	0	4,248,000
法 定 福 利 費	531,437	0	531,437
会 議 費	82,568	12,670	69,898
旅 費 交 通 費	607,010	177,390	429,620
通 信 運 搬 費	43,866	14,674	29,192
消耗什器備品費	0	0	0
消 耗 品 費	91,169	7,609	83,560
印 刷 製 本 費	271,950	36,750	235,200
賃 借 料	127,139	10,000	117,139
謝 金	300,000	210,000	90,000
租 税 公 課	0	0	0
委 託 費	10,567,564	6,625,566	3,941,998
諸 手 数 料	20,465	57,855	△ 37,390
字 幕 補 助 費	49,783,424	37,332,100	12,451,324
雑 費	18,000	259	17,741
③国際共同製作支援事業費	147,522,839	178,273,789	△ 30,750,950
給 与 手 当	4,920,000	0	4,920,000
法 定 福 利 費	597,151	0	597,151
会 議 費	127,637	1,789,331	△ 1,661,694
旅 費 交 通 費	16,032,490	22,731,915	△ 6,699,425
通 信 運 搬 費	1,188,923	589,364	599,559
什 器 備 品 費	0	24,504	△ 24,504
消耗什器備品費	71,910	186,817	△ 114,907
消 耗 品 費	71,337	164,869	△ 93,532
図 書 新 聞 費	244,999	930,086	△ 685,087
印 刷 製 本 費	2,735,030	1,774,832	960,198
賃 借 料	4,437,473	6,268,473	△ 1,831,000
保 險 料	54,930	80,740	△ 25,810
謝 金	2,827,886	5,823,965	△ 2,996,079
租 税 公 課	10,000	0	10,000
海外誌 掲 載 費	0	673,103	△ 673,103
委 託 費	111,037,405	133,382,802	△ 22,345,397
諸 手 数 料	228,725	467,580	△ 238,855
雑 費	2,936,943	3,385,408	△ 448,465
(3)調査・研究事業	31,534,692	312,254	31,222,438
会 議 費	1,050	3,390	△ 2,340
旅 費 交 通 費	941,365	264,860	676,505
通 信 運 搬 費	51,195	13,444	37,751
消耗什器備品費	0	0	0
消 耗 品 費	2,170	0	2,170
図 書 新 聞 費	0	0	0
印 刷 製 本 費	40,320	0	40,320
賃 借 料	98,112	0	98,112
謝 金	0	0	0
租 税 公 課	1,000	0	1,000
委 託 費	29,216,074	17,325	29,198,749
諸 手 数 料	630	13,235	△ 12,605
雑 費	1,182,776	0	1,182,776

科 目	当年度	前年度	増 減
(4)情報発信事業費	12,339,005	15,684,558	△ 3,345,553
会 議 費	0	0	0
旅 費 交 通 費	2,760	34,400	△ 31,640
通 信 運 搬 費	39,923	22,305	17,618
消耗什器備品費	0	0	0
消 耗 品 費	0	545	△ 545
印 刷 製 本 費	1,037,400	2,958,900	△ 1,921,500
賃 借 料	945,000	585,711	359,289
謝 金	22,222	22,222	0
租 税 公 課	0	0	0
海外誌 掲 載 費	0	840,000	△ 840,000
委 託 費	10,282,445	11,197,861	△ 915,416
諸 手 数 料	9,255	22,008	△ 12,753
雑 費	0	606	△ 606
(5)管 理 費	62,707,482	59,230,890	3,476,592
給 与 手 当	12,024,000	9,914,000	2,110,000
臨時雇 用 賃金	0	1,056,666	△ 1,056,666
退職給 付 費用	89,700	85,500	4,200
法 定 福 利 費	1,368,381	2,135,411	△ 767,030
福 利 厚 生 費	277,951	310,930	△ 32,979
会 議 費	707,615	805,668	△ 98,053
旅 費 交 通 費	1,076,770	1,402,812	△ 326,042
通 信 運 搬 費	1,776,188	1,741,924	34,264
減 価 償 却 費	129,115	167,890	△ 38,775
什 器 備 品 費	0	29,100	△ 29,100
消耗什器備品費	393,953	219,850	174,103
消 耗 品 費	646,477	869,355	△ 222,878
図 書 新 聞 費	469,546	338,141	131,405
印 刷 製 本 費	1,777,248	404,550	1,372,698
光 熱 水 料 費	1,528,611	1,617,940	△ 89,329
賃 借 料	18,128,160	17,641,228	486,932
保 險 料	314,000	0	314,000
役 務 費	2,100,000	2,100,000	0
租 税 公 課	706,500	606,800	99,700
委 託 費	17,472,921	15,657,954	1,814,967
支 払 利 息	96,062	560,135	△ 464,073
諸 手 数 料	585,720	757,325	△ 171,605
雑 費	1,038,564	807,711	230,853
經常費用計	1,116,773,089	1,133,139,171	△ 16,366,082

財産目録

平成20年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
(1) 現 金 預 金	113,757,998		
現金手許有高	757,208		
普 通 預 金	112,992,011		
三菱東京UFJ銀行京橋支店(本口)	107,546,152		
三菱東京UFJ銀行京橋支店(チケット口)	2,190,998		
三菱東京UFJ銀行京橋支店(自転車口)	64,037		
三井住友銀行(本口)	3,166,591		
みずほ銀行	24,233		
外貨預金 三菱東京UFJ銀行京橋支店	8,779		
(2) 未 収 会 費 賛助会費	1,000,000		
(3) 未 収 入 金 日本自転車振興会他	211,139,923		
(4) 前 払 金	2,817,758		
(5) 立 替 金	703,600		
(6) 仮 払 金	228,214		
流 動 資 産 合 計		329,647,493	
2. 固 定 資 産			
(1) 基本財産 三菱東京UFJ銀行京橋支店 定期預金	10,000,000		
基本財産合計	10,000,000		
(2) 特定資産 退職給付引当預金			
三井住友銀行銀座支店 普通預金	846,200		
映画祭事業積立預金			
三菱東京UFJ銀行京橋支店 普通預金	85,000,000		
特定資産合計	85,846,200		
(3) その他固定資産			
什 器 備 品	486,223		
電話加入権	180,200		
ソフトウェア	220,960		
敷 金	5,320,800		
その他の固定資産合計	6,208,183		
固定資産合計		102,054,383	
資 産 合 計			431,701,876
II 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
(1) 未 払 金	93,236,276		
(2) 預 り 金	1,263,205		
(3) 短期借入金 三菱東京UFJ銀行 京橋支店	170,000,000		
流 動 負 債 合 計		264,499,481	
2. 固 定 負 債			
退職給付引当金	846,200		
固 定 負 債 合 計		846,200	
負 債 合 計			265,345,681
正味財産合計			166,356,195

キャッシュ・フロー計算書

平成19年 4月 1日から平成20年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 当期一般正味財産増減額	△ 33,282,842	32,592,874	△ 65,875,716
2. キャッシュ・フローへの調整額			
減価償却費	129,115	167,890	△ 38,775
退職給付引当金の増減額	89,700	85,500	4,200
未収入金の増減額	△ 7,871,970	△ 23,124,415	15,252,445
未収会費の増減額	3,000,000	14,000,000	△ 11,000,000
貯蔵品の増減額	465,600	△ 465,600	931,200
前払金の増減額	△ 532,487	△ 988,927	456,440
立替金の増減額	△ 610,959	△ 92,641	△ 518,318
仮払金の増減額	△ 228,214	140,000	△ 368,214
未払金の増減額	△ 21,562,757	18,320,544	△ 39,883,301
預り金の増減額	△ 755,976	612,385	△ 1,368,361
事業活動によるキャッシュ・フロー	△ 61,160,790	41,247,610	△ 102,408,400
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 投資活動収入			
基本財産取崩収入	0	10,000,000	△ 10,000,000
特定資産取崩収入	50,500,000	60,036,653	△ 9,536,653
投資活動収入計	50,500,000	70,036,653	△ 19,536,653
2. 投資活動支出			
基本財産取得支出	0	10,000,000	△ 10,000,000
特定資産取得支出	50,589,700	60,122,153	△ 9,532,453
固定資産の取得	168,000	318,000	△ 150,000
投資活動支出計	50,757,700	70,440,153	△ 19,682,453
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 257,700	△ 403,500	145,800
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 財務活動収入			
借入金収入	170,000,000	120,000,000	50,000,000
財務活動収入計	170,000,000	120,000,000	50,000,000
2. 財務活動支出			
借入金返済支出	120,000,000	90,000,000	30,000,000
財務活動支出計	120,000,000	90,000,000	30,000,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,000,000	30,000,000	20,000,000
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 11,418,490	70,844,110	△ 82,262,600
VI 現金及び現金同等物の期首残高	125,176,488	54,332,378	70,844,110
VII 現金及び現金同等物の期末残高	113,757,998	125,176,488	△ 11,418,490

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品……最終仕入原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品……定額法によっている。

ソフトウェア……定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金……職員の退職給付に備えるため、当期末における自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有者が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リースについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 会計方針の変更

(1) 減価償却方法の変更

法人税法の改正（（所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号）及び（法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号））に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

この変更に伴う正味財産増減の影響は軽微であります。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
退職給付引当預金	756,500	89,700	0	846,200
映画祭事業積立預金	85,000,000	50,500,000	50,500,000	85,000,000
小 計	85,756,500	50,589,700	50,500,000	85,846,200
合 計	95,756,500	50,589,700	50,500,000	95,846,200

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	—	(10,000,000)	—
小 計	10,000,000	—	(10,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当預金	846,200	—	—	(846,200)
映画祭事業積立預金	85,000,000	—	(85,000,000)	—
小 計	85,846,200	—	(85,000,000)	(846,200)
合 計	95,846,200	—	(95,000,000)	(846,200)

5. 担保に供している資産

該当なし。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当期末残高
什 器 備 品	1,340,208	853,985	486,223
ソ フ ト ウ ェ ア	405,255	184,295	220,960
合 計	1,745,463	1,038,280	707,183

(注) 直接法により減価償却を行っているものである。

7. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

8. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金・分担金						
・公益事業振興補助金	日本自転車 振興会	0	39,176,453	39,176,453	0	—
・国内映画祭支援	文化庁	0	47,000,000	47,000,000	0	—
・東京国際映画祭 コンペティション 部門共催	東京都	0	30,000,000	30,000,000	0	—
・東京国際映画祭 アジアの風共催	渋谷区	0	1,100,000	1,100,000	0	—
・日本映画情報英文カ タログ共同発行	国際交流基金	0	1,600,000	1,600,000	0	—
合 計		0	118,876,453	118,876,453	0	

9. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

10. 重要な後発事象

該当なし。